

写友会

お客様とキタムラをつなぐ
コミュニケーション情報誌

カメラのキタムラ広報室
〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1
☎045-476-0777

平成7年9月1日発行 季刊第14号

Vol.14 Autumn

カメラとビデオのビッグチェーン

カメラの
キタムラ®

特集

彩

豊かな風土に磨かれた「色」の生活感性

ソフトレンズで紅葉を撮った。一つの紅葉の枝にも色づくタイムラグがあるために様々な色合いの葉が茂る。山形で撮影。
〈撮影〉秋山庄太郎氏





絵になる葉というのは、探してみるとなかなかないものだ。箱根で撮影。<撮影>秋山庄太郎氏



春に一度目を覚ましたのだが、やはり春の夜は寒く、たまたま見つけた小鳥の巣を利用して眠っている。
■カメラ：キヤノンNEW F-1 レンズ：マクロ50mm F3.5 絞り：f8
シャッタースピード：オート フィルム：ベルビア ストロボ使用
<撮影>西村豊氏

キタムラ・インフォメーション……………18
第3回「全国桜前線」フォトコンテスト入選作品発表……………19
読者のページ 写友缶ふれあい広場……………20
プレゼントが当たる！クロスワードパズル……………20
編集後記……………20

連載記事

ぶらりわが街「福岡」宮崎啓一さん……………9
THEフォトワールド②……………10
動物写真の世界 西村豊氏インタビュー……………12
カメラメーカー歴史探訪①ニコン編……………14
フォトライフステップアップレッスン②……………17
露出を知ってイメージ通りの明るさに仕上げよう……………17
知って得する写真おもしろ話⑥……………17
世界最古の写真はなんと露光時間が8時間半!!……………17

特集



秋山庄太郎氏インタビュー
豊かな風土に磨かれた「色」の生活感性
自然が与えてくれた彩りを、生涯追い続けたい。
キタムラがお薦めする「紅葉ポイント」……………6

求められていたのは、内なる進化だ。
EOS-1N誕生。



写真家の道具と呼ぶにふさわしい機能、性能、使い心地。
すべてにおいて最先端であり続けるために。
揺るぎない実績を礎に、いま新たな完成域へ。待望のEOS-1N。



EOS1Nメーカー希望小売価格

EOS-1N ボディ……………	¥215,000 (税別)	EOS-1N DP ボディ……………	¥230,000 (税別)
EOS-1N HS ボディ……………	¥265,000 (税別)	EOS-1N RS ボディ……………	¥320,000 (税別)
EF50mmF1.4USM……………	¥49,000 (税別)		

カタログのご請求は、〒108-11 東京都港区三田3-12-15 東急三田ビル キヤノン販売株式会社 EOS-1N 係まで、おハガキでどうぞ。 キヤノン株式会社・キヤノン販売株式会社

Canon EOS-1N

キヤノンEOSパラダイスセール ■セール期間：'95年9月1日(金)～10月31日(火) ■対象商品：EOSシリーズ
ただ今キタムラ全店にて「キヤノンEOSパラダイスセール」実施中。期間中EOSシリーズお買い上げの方に「特製パラダイスバッグ」をプレゼント。詳しくは店頭へ。

彩

豊かな風土に磨かれた「色」の生活感性

日本には、他国に見られない複雑微妙な色彩文化が存在します。平安時代より今まで、千年余りも生き続けている伝統的色彩名が数多くあることは、我が国の風土や生活とも密接な関わりがあると思われれます。

四季折々の自然によって鮮やかに彩られる、変化に富んだ日本の風土を考えた時、それらが持つ天然色の美しさが、日本人の感性や文化に大きな影響を与えているという事は、誰もが認めるところでしよう。春の花が咲き

乱れる色、夏の緑が繁る色、秋は木の葉や実が染まってゆく色、冬は雪や氷がきらめく色など、自然が醸し出す豊かな色彩に、人々は美しさを見出し、それらにさまざまな情緒ある色名を付け、呼び伝えてきました。桜色・山吹色・萌黄色など古来からの色名は、それ自体が日本人の伝統的な色彩観・自然観・美意識などを物語る、イメージの結晶なのです。

また、我が国における色彩の多様性は、生活文化の上では、染料の発達と無関係ではあ

りません。現代でもよく使われる紫・紅・藍・茜などの色名は、元々はその色の染料を作り出すための、原料となる植物の名前です。そして朱・丹・群青・緑青などは、その色の染料を作るための鉱物名からとったものです。

こうして自然が作り出した色彩が生活の中に入り込み、人々の色彩感覚を豊かにしてゆきました。そしてこの染料技術は平安貴族の優雅な装束にも取り入れられ、独特な配色を生み出しました。二色以上の着物を重ね着し

て、その組み合わせにより季節の自然を表現する「襲の色目」などは、日本ならではの洗練された色彩文化を象徴するものでしょう。今年も自然が鮮やかに色づく秋が巡ってきました。毎年同じように見ている紅葉でも、

今回はちょっとだけ感性を研ぎ澄まして眺めてみてください。ただ単に赤い色ではなく、燃えるように鮮烈な美しさを放つ紅色を感じとることができたなら、きっとそれが「日本人の心」なのです。

※なお、表紙及び特集ページに掲載した写真は、すべて秋山氏の作品です。



山形のナナカマド。小さなものにも秋はちゃんとやってくる。被写体というものはどこに隠れているかわからない。



紅葉は樹の種類の違いで色づく時も、色も違ってくる。複数の種類の樹木が密集している場所では、このような写真も撮れる。福島で撮影。



福島で撮影。写真は色と形と背景の調和が大事だ。



宮崎で見つけたリンドウ。花を撮りだしてもう30年になる。なぜ花を撮り続けるのかと聞かれても困る。好きだからとしか答えようがない。

秋に絵になるのは紅葉だけではない。紅葉を撮る道すがら、周囲の風景にも気を配ってほしい。枯れたバックにススキが映える。山形で撮影。



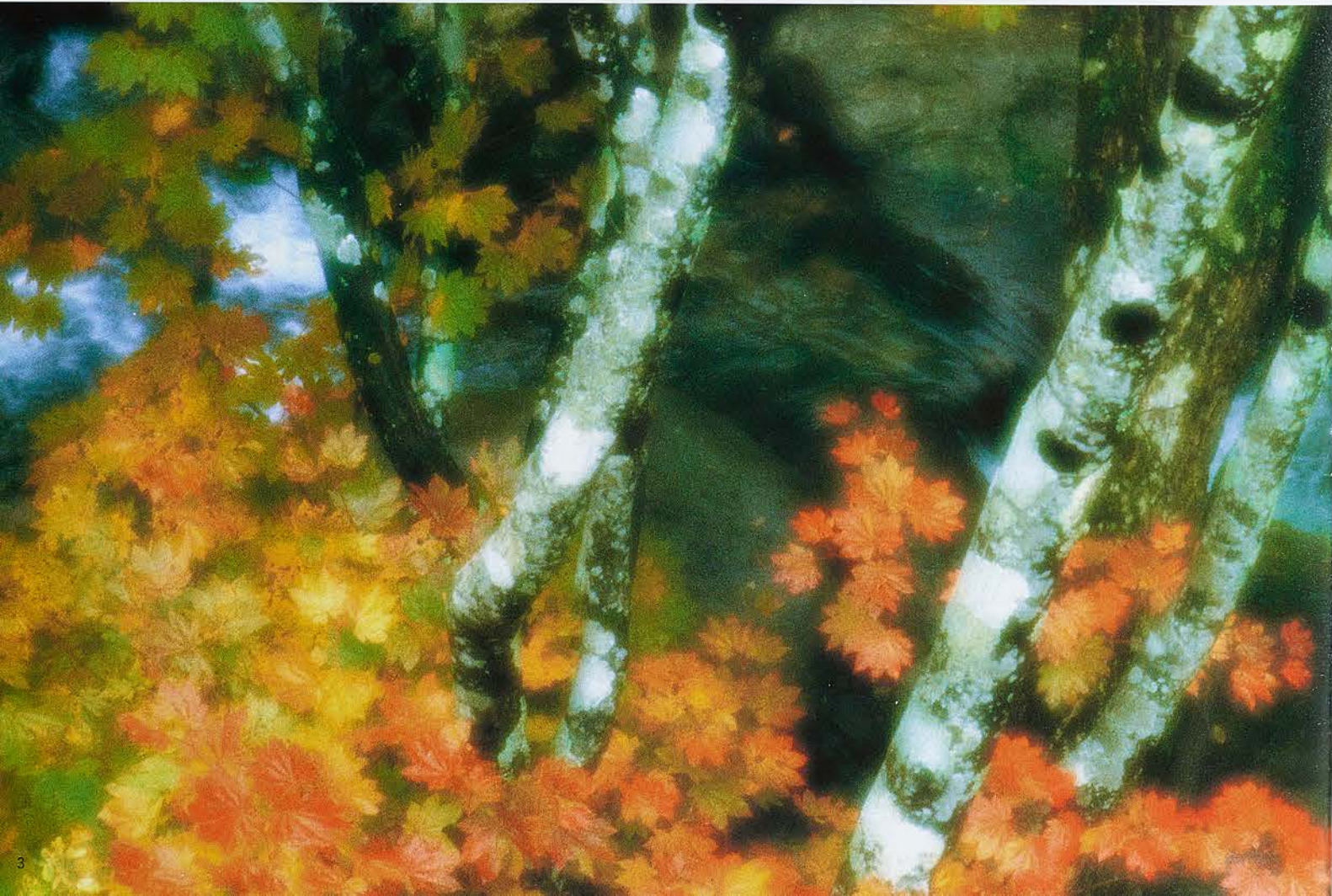
淡い紅葉にも独特の風情がある。米沢で撮影。



渋味のある風景にも彩りはある。秋田で撮影。



紅葉を上から撮るとこう見える。見上げているだけでは新たなアングルは発見できない。福島で撮影。



彩

自然が与えてくれた彩りを、生涯追い続けたい。

秋山庄太郎へ写真家へ

美しい色に惹かれる我々の心は、四季それぞれの自然に培われた、日本独特の「色彩文化」に根ざしています。こうした自然の彩りを象徴する「花」をモチーフにした作品によって、限らない「彩」の世界を追求する写真家・秋山庄太郎氏に、文化と色彩の関係や、秋山氏の考える写真表現の色彩についてお話を伺いました。

※なお、表紙及び特集ページに掲載した写真は、すべて秋山氏の作品です。また秋山氏のご要望により作品のデータは省略させていただきますので、ご了承ください。

日本文化は、生活と自然の色彩が密着しているんですよ。

日本という国は、季節ごとの豊かな自然に彩られ、その「色彩のお手本」の中から、美しい色を選んで生活に採り入れているんです。だから日本人の色彩感覚が優れていないわけではなく、着物の柄などを見ても、日本人がかなり高水準の色彩文化を持った民族であることがわかります。ただ、日本的な色彩というのは、全体的に見ると他国のものに比べて淡めですね。鮮やかな色よりも、落ち着いた、奥ゆかしい色彩を好むのが、我々の伝統的な美意識のようですね。

私の好きな植物の中に、御衣黄ごいおうという桜があるんですが、この花は黄色っぽく、また淡い緑にも近い、非常に日本的な色をしていて美しいんです。それでこの難しい名前の由来はというと、昔の宮中の貴族が、この色の着物を好んで着たからだというんですね。このことからわかるように、もともと日本は、生活と自然の色彩が密着した文化を持っているんですよ。



米沢で撮影。東北の紅葉は美しい。

ヨーロッパなどでは、日本と違ってわりと鮮やかな色が好まれますから、例えば花にしても、バラなどの人気が高いんですけどね。私もバラに関しては写真集を出しており、最も多く撮影している花だと思っています。バラは赤・白・黄色をはじめとして色のバリエーションが多く、私は「色も形もこれ以上好きな花はない」と思えるほど、惚れこんでいるんですよ。

ところで、ひとつの国で見られる花の種類のパリエーションでいったら、日本が一番多いのではないのでしょうか。これは、日本の国土が北海道から九州まで南北に長く、さまざまな植物が生息できる、変化に富んだ気候を持つこととも関係があると思います。まず梅や桜など日本古来の花があり、それに加えて世界中の国から数えきれない



紅葉を背景とすることで、枯れた樹木を浮き上がらせている。このような紅葉のとりえ方もある。米沢で撮影。

自分の写真家生活に、花や紅葉は彩りを添えてくれるんです。

色彩に惹かれるといえば、花と並んで紅葉も、私の好きなモチーフです。まあ、美しいものに惹かれてしまう私にとっては「紅葉も花のうち」って感覚なんです(笑)。ただし

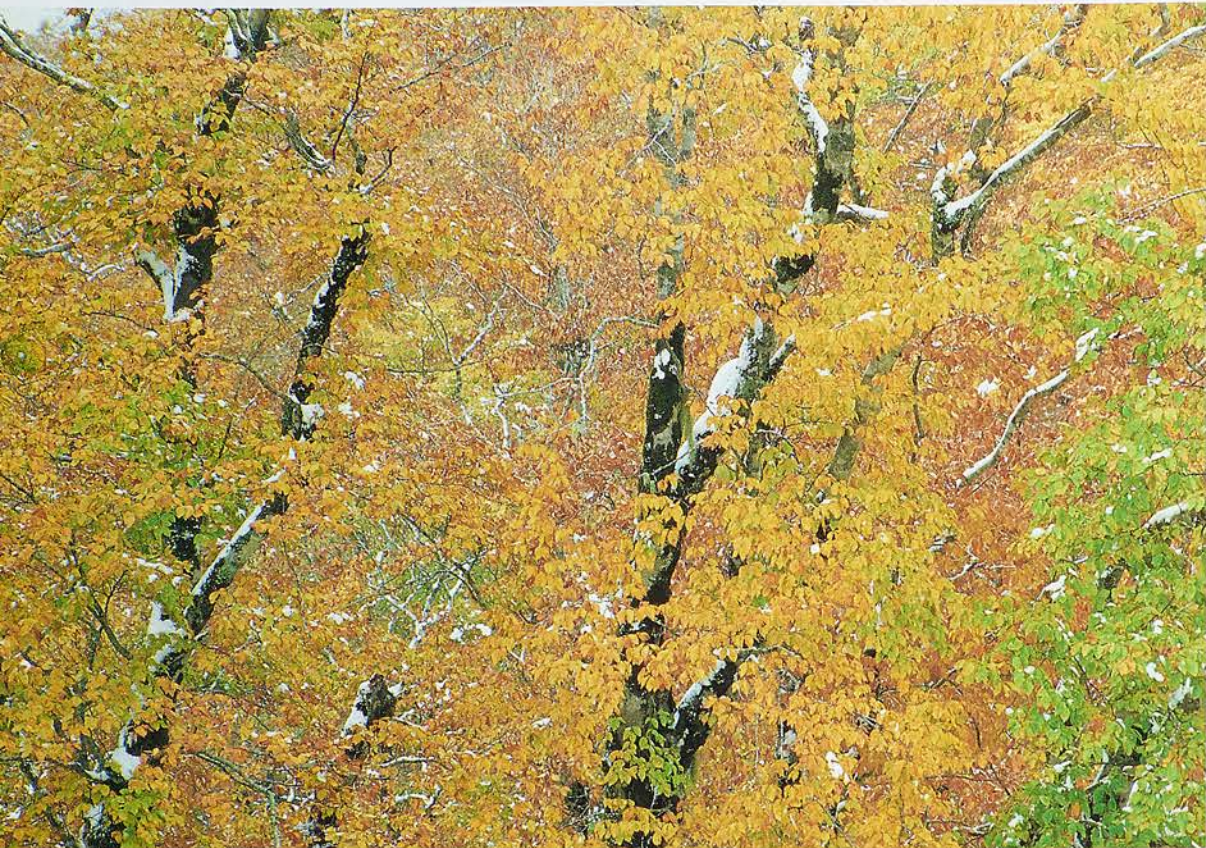
紅葉は虫に食い荒らされたりすることも多いので、葉の形などにこだわると、なかなかいい被写体の樹に出会えず、作品数としては少ないんですよ。花や紅葉を撮るなら、まず「色の良さ」、次に「形の良さ」、そして「モチーフに合った背景」が重要な要素で、これらは三位一体のものなんです。例えば、素晴らしい色の花があっても、背景が目立ち過ぎたら打ち消されてしまう。それを引き立てるには、抑えた背景色による色彩的な調和が必要なんです。

私にとって花や紅葉は、仕事を抜きにしても、本当に心から愛することができて、自分の写真家生活を鮮やかに彩ってくれている存在なんです。私の写

真家としての生命が続く限り、撮り続けていきたいと思っています。紅葉の美しさは、真つ赤な色彩だけではないんです。

私が紅葉を撮るようになったきっかけは、二十数年前に東北や北海道を訪れた時でした。ひとつの山全体が真つ赤に燃えているような紅葉の風景を目のあたりにし、ものすごい衝撃を受けたのを覚えています。ただ、紅葉だからといって真つ赤に染まったものが一番美しいかというと、そんなことはないんですよ。よく観察すると黄色や橙など樹によって異なる微妙な色合いがあるので、これを見逃す手はないし、これらが混じり合った様も、上手く作品にすることができたらきれいですよね。

そういった意味でいうと紅葉写真の一番の面白さは、とにかく目的地へ出かけて行って、良い色彩や背景を備えたモチーフを発見することにあると思うんです。行く前から構図を



赤だけが紅葉であるわけではない。黄葉も十分絵になる。米沢で撮影。



花が好きなのでつい足下に目がいってしまっ。宮崎で撮影。



彩度のある風景の中にもどこか落ち着きがあるのが日本の「色」である。山形で撮影。

決めたりできませんから、逆に言えばいい写真が撮れるという保証はない。だから技術うんぬんよりも、いい被写体を選ぶことが、最も大切になってくるんです。今度キタムラの「全国紅葉前線フォトコンテスト」の審査を担当することになったんですが、私がアマチュアの方に言いたいことは、とにかくたくさん撮ってみることですね。数をこなすことで着実に上手くなるし、その結果コンテストで入賞ですれば、それは大きな自信につながるのですから。



枯れたバックは被写体の色に一層の彩度を与えてくれる。米沢で撮影。

※ここに紹介した場所で撮影する場合は、常識的なエチケット・マナーを守るようにしましょう。特に撮影地の所有者及び近隣に迷惑をかけないよう、また自然環境への配慮などを忘れないよう、ご注意ください。

キタムラがお薦めする「紅葉ポイント」

ここに紹介する撮影ポイント及び写真は、第3回全国紅葉前線フォトコンテストに入賞された方のご協力をいただいたものです。説明の番号は①=撮影者 ②=撮影場所 ③=交通手段 ④=撮影チャンスの時期と時間 ※ここに掲載した紅葉名所はほんの一例です。

14 ①末本 実氏 ②広島県佐伯郡宮島町 紅葉公園 ③JR山陽本線宮島口駅から連絡船で宮島 徒歩10分 ④11月上旬 午前8時半～9時半頃

13 ①藤原修司氏 ②岡山県備前市閑谷 閑谷学校(重要文化財) ③JR山陽本線吉永駅下車→バス穂浪行き閑谷下車 ④11月上～中旬 早朝が良い

12 ①吉田芳雄氏 ②奈良県桜井市百市(モモチ) 談山神社方面約0.5km 寺川の渓流 ③JR桜井線桜井駅下車→バス多武峰行き下居下車徒歩約0.5km ④12月中旬 午後2時頃

11 ①高木英夫氏 ②京都市左京区金戒光明寺三重塔付近 ③JR京都駅から地下鉄北山行き烏丸丸太町駅下車→バス錦林車庫行き岡崎神社前下車徒歩4分 ④11月中旬

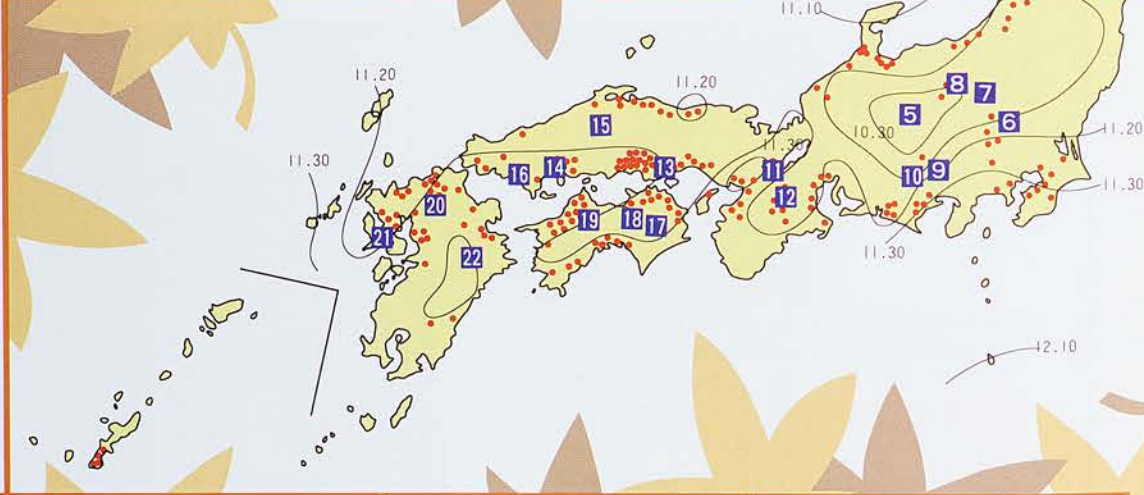
※本州・四国・九州についてはイロハカエテ、北海道についてはヤマモミジ・オオモミジで時期日線図を表わしています。
●印はカメラのキタムラがある地域。
【ご注意】紅葉撮影時期は気温の変化で異なります。現地の情報を確かめてお出掛け下さい。
資料提供：気象庁

17 ①鈴木光洋氏 ②徳島県三好郡東祖谷山村 剣山西島神社 ③JR徳島本線貞光駅からバス見の越(約2時間)下車→リフト西島神社 ④10月中旬 午前8時頃(雨の日が良い)

16 ①岡田邦彦氏 ②山口県徳山市長穂 竜文寺裏庭(住職に許可を得ること) ③JR山陽新幹線徳山駅からバス鹿野(新南陽駅経由)行き徳山カントリーゴルフ場入口下車ゴルフ場に向かい徒歩15分 ④11月上旬 午前9時頃

15 ①田中隆幸氏 ②島根県飯石郡吉田村 大万木山山頂から広島県側斜面 ③中国自動車道庄原ICからR432仁多町方面途中左へ杉戸林道→吉田村方面大万木山 ④10月下旬 午前9時頃(広島県側斜面は午前、島根県側斜面は午後が良い。)

18 ①陸岡 智氏 ②徳島県三好郡山城町頼広(通称 半田岩) 五十鈴神社の岩場から ③JR土讃線阿波川口駅から徒歩で大川持の鉄橋を渡って右折、伊予川に沿って約3km、黒川橋を渡って左折、黒川沿いに黒川林道を約3km、ぼたるの里・半田岩 ④11月上～中旬 1日中撮影タイム



22 ①市丸製袋子さん ②大分県竹田市朝地町 用作(ようじゃく)公園 ③JR豊肥線朝地駅下車タクシーで15～20分 ④11月上旬 午後3～4時頃

21 ①前田達朗氏 ②長崎県北高来郡高来町轟峡の上流 ③車でR207を鹿島市から諫早市に向かいJR長崎本線湯江駅手前を境川に沿って轟峡に向かう ④10月下旬 午前10時頃

20 ①池上雄司氏 ②福岡県久留米市山本町津遊川近辺のハセ並木 ③JR久大本線善導寺駅からバス津遊川バス停→徒歩5分 ④11月上～中旬 1日中撮影タイム

19 ①峯本俊満氏 ②愛媛県石鎚山天狗尾根岩場 ③JR予讃線伊予西条駅からバス西之川下車→石鎚ロープウェイ成就下車、天狗岳山頂へ徒歩3時間 ④10月上～中旬 午後3～4時頃

6 ①武井良美さん ②群馬県利根郡片品村丸沼 ③JR上越線沼田駅からバス一鎌田乗換→丸沼スキー場終点から徒歩4km ④10月中旬 午前6時過ぎ

5 ①土佐泰彦氏 ②長野県上高地大正池バス停見晴らし台 ③松本電鉄新島々駅からバス→上高地大正池下車 ④10月下旬 午後3時頃

4 ①石川 宏氏 ②宮城・山形県境 自然公園船形連峰の北泉岳北斜面の薬沼 ③車で東北自動車道大和IC→船形山登山道入口・旗坂キャンプ場→林道(悪路)→薬沼 ④10月中～下旬 日の出直後

3 ①風林信一氏 ②北海道上川郡美幌町新栄 ③JR富良野線美馬牛駅下車→徒歩約1時間 ④10月上旬 午後5時前後

10 ①土屋隆作氏 ②静岡県榛原郡中川根町大札山赤石林道 ③JR東海道線金谷駅乗換大井川鉄道→田野口駅下車徒歩往復で約6時間 ④10月下旬～11月上旬 午前中

9 ①伊佐野輝邦氏 ②静岡・山梨県境安倍峠から山梨側を望む ③車で静岡駅→県道梅ヶ島温泉昭和線→梅ヶ島温泉から徒歩20分 ④11月上旬 日の出から午前中

8 ①杉野文彦氏 ②長野県下水内郡栄村秋山郷 ③車でR117津南町→R405秋山郷あるいは野沢温泉→奥志賀林道→秋山林道 ④10月中～下旬 午前9～10時頃

7 ①伊瀬谷儀男氏 ②群馬県谷川岳一の倉沢合 ③JR上越線水上駅から車で一の倉沢合約20分 ④10月中旬 午前7時頃



平尾霊園は福岡市南区の一面にある墓地。最近では緑が伸び過ぎ、ひと頃の高級霊園団地の威容が薄らいだ感じたが、夕暮れ時は犬の散歩やジョギングの人達が訪れて、やはり何かと心落ち着く場所である。
■カメラ: アサヒペンタックス6×7 レンズ: タクマ75mm F4.5 絞: f22 シャッタースピード: 2分 フィルム: RDPⅡ 三脚使用



桜で名高い福岡市の舞鶴公園の一面に平和台の堀があり、春は桜並木の落花で一面花びらに覆われる。子供達の動きを配してスナップした。
■カメラ: ミノルタα8700i レンズ: ミノルタAF 28-85mmズーム 絞: f11 シャッタースピード: オート フィルム: エクタクローム



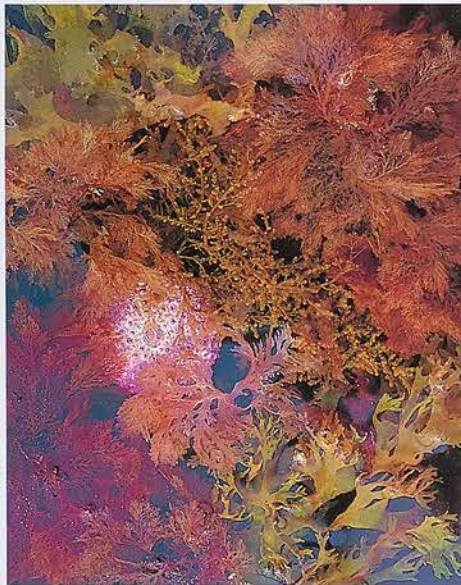
ぶらりわが街 福岡

福岡県福岡市 宮崎啓一 さん

私の住む福岡県福岡市南区の筑紫ヶ丘周辺は、まわりに大学の多い、のどかな学園都市です。この地で生まれた私は、子供の頃から豊かな自然に囲まれて育ちました。私はネイチャーフォトを撮るのが好きなんです。この近辺では平尾霊園という公園墓地に、四季折々の自然を撮りによく出かけます。ここは秋の彼岸花や、冬の雪景色などがとても美しい所なんです。特に私のお気に入りの夕暮れ時ですね。沈む夕日が最高にきれいなんです。あと、船に乗って博多湾の方へ足を伸ばすと、志賀島という所があり、ここの海岸も絶好の撮影ポイントです。海が荒れた時など、岩に波が打ち砕かれるような感じで迫力があり、ぜひ一度ご覧いただきたい名所です。

全国各地で熱心に撮影活動を行っている写真ファンの方々に、地元の名所を自身の作品で紹介していただくコーナーとして、前号より始まった「ぶらりわが街」。第二回目は今回は、昨年の全国紅葉前線フォトコンテストでグランプリを受賞した、宮崎啓一さんに地元の福岡を紹介していただきます。

博多に夏を告げる博多祇園山笠は全国に知られたっているが、この祭には博多っ子の心意気が端的に表れている。昔も今も変わらないクライマックス「朝山の榊田入り」は何と云っても見ものだ。
■カメラ: ミノルタα8700i レンズ: ミノルタAF 24-50mmズーム 絞: f5.6 シャッタースピード: オート フィルム: RDP ZSⅠAUR ORAフィルター使用



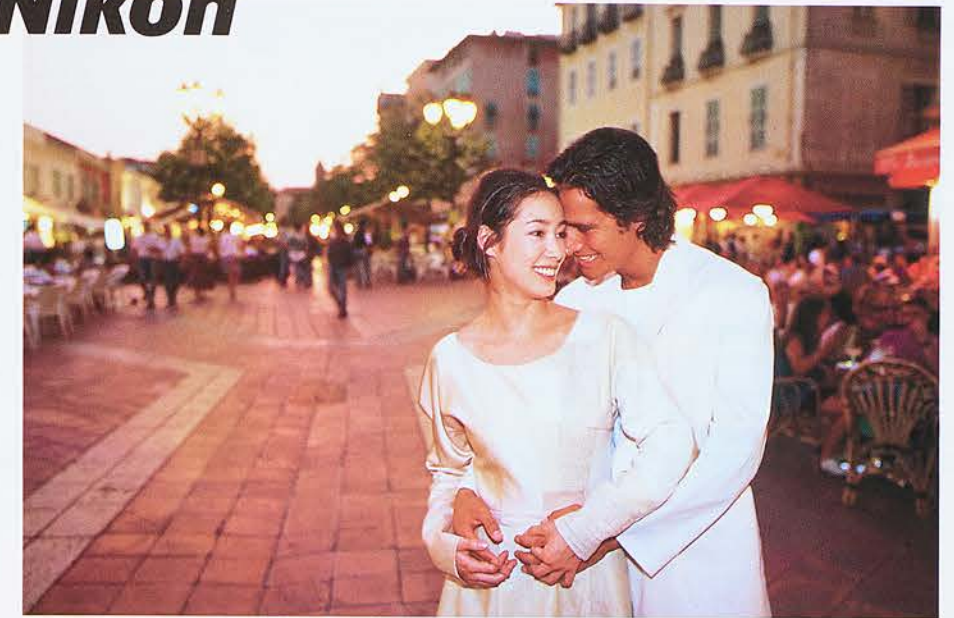
志賀島は万葉の昔、海洋部族の本拠として、また金印発見の地として知られる島で、海の幸に恵まれ、夏は第一級の海水浴場となる。初冬には海鷗が飛来し、早春の大潮の干潮時には天然のワカメ採りなど、一年中被写体には事欠かない。
 (上:「海鷗」) **■カメラ**: ミノルタα8700i レンズ: ミノルタAF400mm F5.6アポ 絞: 開放 シャッタースピード: オート フィルム: RDP 三脚及び2×エクステンダー使用
 (左:「流れ藻」) **■カメラ**: アサヒペンタックス6×7 レンズ: マクロ135mm F4.5 絞: f32 シャッタースピード: 1/2秒 フィルム: ベルビア 三脚及び中間リング使用
 (下2点:「早春の大潮の頃」) 下右 **■カメラ**: ミノルタα8700i レンズ: ミノルタAF400mm F5.6アポ 絞: 開放 シャッタースピード: オート フィルム: RDP 2×エクステンダー使用
 下左 **■カメラ**: ミノルタα8700i レンズ: シグマフレックス600mm F8 絞: 開放 シャッタースピード: オート フィルム: RDP 2×エクステンダー使用



宮崎啓一氏
 第3回全国紅葉前線フォトコンテストで、作品「杉木立と紅葉」(写真第12号に掲載)により最優秀グランプリを受賞。



Nikon



人への優しさをめざした、フラッシュ内蔵AF一眼レフ。

Nikon F70D PANORAMA



■大型液晶表示パネルによる、こちよ操作性。■光の状態を知る3D-8分割マルチパターン測光。■感性に応える多機能スピードライト。■最適な光をあてる3D-マルチBL測光。■しつくりと手になじむフォルム。■静かな操作音。■すばやく確実なオートフォーカス。■思いをかたちにするイメージプログラム。■撮る楽しさを広げる外部切り換え式パノラマ。

カタログをご用意しています。機種名、誌名をご明記の上、100-91東京中央郵便局私書箱1269号 株式会社ニコン お客様相談室宛に請求ください。

Nikon 株式会社ニコン 本社: 100東京都千代田区丸の内3-2-3(富士ビル)

RICOH



カメラグランプリ'95
 カメラ記者クラブ特別賞受賞

大衆性・話題性・先進性に特に優れた製品に贈られる、「カメラグランプリ'95・カメラ記者クラブ特別賞」受賞。



薄い バトロネ直径とほぼ同サイズ、25mm(グリップ部を除く)のボディ。
 広い 実際の撮影範囲が広がる24mmスーパーワイドパノラマ搭載。
 見やすい 明るい、見やすい、採光式ブライト液晶フレームファインダー。

Quality Package R1

*表記されている「パノラマ」とは、カメラ側で標準撮影の1コマ分の上下を遮断して約13×36mmの横長の映像を写し込み、プリント段階でパノラマサイズに仕上げるものです。
 カラー/グレイッシュグリーン&チタニウムブラウン メーカー希望小売価格 ¥40,000(税別) 株式会社リコー光学事業部 千140 東京都品川区東品川3-32-3 TEL.03(5479)2901



巣穴の前で、ヤマネが出てくるのを待っていた。突然、穴の中から顔を出したヤマネ。しかし、これ以上出ようとはしない。
 ■カメラ：オリンパスOM2N レンズ：135mm F4.5 絞り：f5.6 シャッタースピード：オート フィルム：KR50 三脚及びストロボ使用



秋の終わりにこの枯れ葉の下に入り、そして半年近い冬眠に入る。春が訪れて雪が解けると、再び姿を現わす。
 ■カメラ：オリンパスOM2N レンズ：マクロ150mm F3.5 絞り：f8 シャッタースピード：オート フィルム：ベルビア ストロボ使用

動物写真の世界

THE
 フォトワールド
 ②

自然の中で生き物達と出会い、そして守ってゆきたい。
 西村 豊氏<カメラマン>

動物写真とひと口に言っても、アフリカの象やライオンを追った作品から、犬や猫など家庭のペットを撮ったものまで、その範囲は意外と幅広い。今回お話を伺った西村豊氏の場合は、信州の八ヶ岳周辺を本拠に、この地の自然や野生動物を追い続けているカメラマンだ。22年ほど前の冬の夜に、偶然出会ったキツネの神秘的な姿に魅了され、それ以来ここに棲む動物を撮ることをライフワークとしているという。そして彼の撮影活動の中でも特に注目されているのは、「ヤマネ」という珍しい動物を撮り続けていることだ。

ヤマネとは、国の天然記念物にも指定されている体長6センチ前後の小さな動物で、八ヶ岳などの重高山帯に生息している。夜行性で、雪の中で冬眠する習性もあり、その生態にはまだ謎も多いという。西村氏の写真集「ヤマネ」のページをめくると、本当に可愛らしい、しかし厳しい自然の中で懸命に生きていく、この小動物の魅力が全ての作品に溢れている。「ヤマネのつづらな眼が好きなんです。もう18年も撮り続けています」と西村氏は楽しげに語る。撮影法としては、餌付けをして動物を呼び寄せるようなやり方ではなく、ヤマ



生後25-30日の子供を連れて、夜の散歩をする母ヤマネ。しかしのんびりしているわけではない。子供達に色々なことを教えている。
 ■カメラ：オリンパスOM2N レンズ：135mm F4.5 絞り：f5.6 シャッタースピード：オート フィルム：KR50 ストロボ使用

ネから少し離れた所で刺激しないようにじつと観察しつつシャッターチャンスを待つという、あくまで自然で地道な方法をとるそうだ。「長時間動物を見たければ、近づきすぎたはいけないんです。ヤマネなら3m位が警戒されない距離で、それより踏み込んだら逃げられてしまうんです。これを守ることによって、相手もこちらに慣れてきて、暗黙の了解ができてくるんです」と、西村氏は動物とカメラマンとの信頼関係が存在することを教えてくれた。撮影の際、キツネの場合だと600〜800mmの超望遠レンズで遠くから狙うが、ヤマネの場合は3mまで近づけるので、150mmまでのレンズで全てまかなえるという。ただし夜行性のヤマネを撮るのに、ストロボを使用する場合は注意が必要だ。「あまりストロボ光を強くするとヤマネが驚いてしまうし、続けて何枚も写すと、やはり警戒されてしまうんです。だから一枚写した



木に登りながら周囲を警戒する。この時ストロボが光り、「今のは何だ？」というような顔をしている。
 ■カメラ：キヤノンNEW F1 レンズ：マクロ100mm F4 絞り：f5.6 シャッタースピード：オート フィルム：KR50 ストロボ使用

らしばらくは様子を見る、といったように我慢が大切なんですよ。これはかなり根気のいる撮影のようである。あたり前のことだが、ヤマネを撮るには、まずヤマネに出会わなければならない。そのヤマネを見つけれられるようになるまでがまた、かなり年季のいることなのだ。

「以前、ヤマネの調査隊が組織されて私が山を案内したことがあるんです。長さ4mmほどのヤマネの糞を、私が見つけて指さしたんです」と西村氏が言うように、たとえヤマネがそこに生息していても、普通の人にはなかなか判別が難しいようだ。ずっとヤマネを追いつけている西村氏の場合は、「ヤマネが好む木があるか」「食べ物があるか」「湿度がヤマネに適しているか」といったことを、総合的に判断してヤマネの居場所を見つけ出すことで、その判断はまず間違いないという。

「どんなに机の上で資料を集めても、現場に行つてすぐにはわかるものではないんです。こればっかりは場数を踏むしかないんです。西村氏ならではの言葉に我々は頷くしかない。ヤマネの撮影作業は冬眠している時期を含め、ほぼ一年中絶え間なく続く。まず、秋口に山中の木のはこらや枯れ葉の下など、ヤマ



雪の中で冬眠していたヤマネが、春の暖かい気温で目覚め始めている。
 ■カメラ：キヤノンEOS 5 レンズ：35mm F1.8 絞り：f5.6 シャッタースピード：オート フィルム：ベルビア ストロボ使用



小鳥の巣箱に入って冬眠するヤマネ。普通は木の穴、枯れ葉の下、雪の中などで冬眠する。
 ■カメラ：キヤノンNEW F-1 レンズ：マクロ50mm F3.5 絞り：f8 シャッタースピード：1/60秒 フィルム：KR50

アマチュアの我々が動物写真を撮る始めようと思っても、すぐには無理なことを承知で、あえて西村氏にアドバイスを求めてみた。「ヤマネはちよつと難しいと思いますけど、他の動物なら、足跡が雪に残る冬から探し始めるといいでしょう。そして凶鑑などで、何の動物かを判断する。また、糞の形跡を調べると何度も足を運んで調査するうち、運に恵まれば動物に巡り会えるでしょう」

やはり一朝一夕というわけにはいかないようだが、いずれにしても西村氏のように「動物を愛し、自然に親しむ」心を持つことが、動物を撮るための最低条件といえるだろう。



春、冬眠から目覚めたヤマネは食べ物を探す。この時、ふくらんだ木の芽の所にやってきた。
 ■カメラ：オリンパスOM2N レンズ：135mm F4.5 絞り：f8 シャッタースピード：オート フィルム：KR50 三脚及びストロボ使用



にしむら ゆたか
 1949年京都府生まれ。1972年に長野県に移り住み、1977年に自然写真家として独立。日本写真家協会会員。著書：『新信濃写真風土記』・『本土狐』（信濃教育会出版部）、『科学のアルバム98・ヤマネのくらし』（あかね書房）、『ヤマネ 西村豊写真集』（講談社）など。なお、ビデオ『森の妖精ヤマネ』（講談社）とCD-ROM『森に棲むヤマネ』（インターミテッドロジック社）も発売中。

ニコン編

光学総合技術に裏打ちされた、世界が認める確かな品質。

ニコンといえば、我々一般カメラユーザーからすると、プロユースをはじめとした高性能カメラが主力のメーカーというイメージがあるが、最近では初心者までをカバーした、幅広いターゲットに向けた機種にも力を入れているようだ。「カメラメーカー歴史探訪」第一回は、カメラ・レンズの優れた性能において、数々の逸話を持つニコンを訪ねてみた。

光学機器メーカーから出発し、世界的カメラメーカーへと発展。

ニコンは、第一次大戦中の1917年に設立された光学機器メーカー。当初は陸海軍で使用する、双眼鏡や測距儀・照準器などを生産するメーカーとしてスタートした。この時代から現在まで78年の歴史を持つニコンだが、写真関連の製品としては、1932年に商標登録され、翌年陸軍に納品されたレンズが最初であった。その名は現在でも通用している「ニッコール」。当時はまだカメラ本体は扱っていなかった「ニッコール」というブランド名は「ニコン」の名前よりも古いことになる。そして同社が初めてカメラを手がけるようになるのは、第二次大戦終結後の1946年。



ニコンF1(1965年)
F1シリーズ第一号機。レンズの完全自動絞りやクイックリターンミラーなど、今では常識の近代的機能をほぼ装備している。当初からハイレンジアップを前提としており、初めは外部運動のセレン光電池露出計しかなかったものの、次々に露出計内蔵の交換フラインダーを開発。15年にわたるロングセラーとなった。



前ニコンカメラ設計部ゼネラルマネジャー 石坂直氏

という話だ。そこでレンズを入手した彼は、直後に勃発した朝鮮戦争を撮り続け、彼の代表作「英雄なき戦争」というルポを発表したという。

ダンカン氏以外にも「ライフ」誌のカメラマン達が、次々にニッコールレンズやニコンのカメラを使い始めたことが評判となり、その年の暮れの「ニューヨークタイムズ」紙では、ニコンのカメラとニッコールレンズの優れた性能が紹介された。そしてこれを契機としてニコン・ニッコールの名が世界に知れ渡ったのだ。その後ニコンは数々の名機を生み出し、いよいよ一眼レフのロングセラー「Fシリーズ」の登場となる。

時代とともに進化を続けるニコンFシリーズ

ニコンとしては初めての一眼レフ「ニコンF」が登場するのは1959年。「一眼レフは古くからあるカメラ形式ですが、当時のものはレンズ交換には向いていても操作性が悪く、普及はしていなかったようです。しかしカメラマンからはその可能性に期待する声が多かったそうです。当社としては、



フォトミックFTN NASA仕様(1972年)
NASAとの契約でニコンカメラが製作したスペースカメラ。スカイラブ計画で使用された。フォトミックFTNをベースに耐久性や精度、材質など、あらゆる面で見直しが行われている。レンズの突起とノブ式の巻き戻しは手袋をはめていても操作しやすくなるため。

納得できる品質の一眼レフが開発されるまで研究を重ね、満を持して発売したのがニコンFだったと聞いています」と語るのは、(株)ニコン・カメラ設計部次長の中野良幸氏。その時の開発理念としては、「自動化」「高品質」「多機能」の三つの柱があり、これは現在のF4に至るまで引き継がれている。そしてニコンFのボディの開発にあたっては、将来の発展性を考えて、さまざまな付加機能に対応できるようにしたという。こうした開発思想に合わせて、実際にFシリーズは着実な進化を続けてゆく。

まず、ニコンFの登場から12年後の1971年にニコンF2が登場する。これは好評を得ていたニコンFに、さまざまな状況で使用しているユーザーからの意見を取り入れ、操作性などをさらにステップアップさせたものだ。そして1980年に発売されたF3は、より将来を見越した設計がされた、ユーザーへの「提案型」機種といえる。

業務の民需転換にあたり、何を製造すべきかが社内でも議論され、その中で浮かび上がったのがカメラだったという。この時は一眼レフカメラと35mmカメラの二本立てで開発計画がスタートしたが、後に一眼レフの方は開発を取りやめて35mmに専念、二年後に最初のニコンブランドのカメラ「ニコンI型」が発売される。こうしてカメラメーカー「ニコン」の基礎ができたのである。

ニコンには、そのレンズとカメラを世界的に知らしめるきっかけとなった有名な逸話がある。1950年、アメリカの雑誌「ライフ」の報道写真家D・ダンカンが日本を取材に来た時に、ニッコールレンズで撮った写真のシャープな描写に驚き、工場見学を希望したと氏は述懐する。

そして現在、F1シリーズの頂点に立つのはF3にユーザーからの要望を取り入れてさらに発展させたF4だ。プロカメラマンからも絶大な信頼を得ているこのカメラは、なんとあのスペースシャトルにも搭載されているという。もともとNASAのアポロ計画の時に、ニコンFの改造機が使われたのは有名な話だが、その後もF3が宇宙開発に使用され、現在のF4に至ってはほぼ標準仕様のまま宇宙空間で活躍しているというから驚きだ。これもニコンへの高い信頼の表れといえるだろう。「こうした一方で、たとえ初心者でもベテランと同じような写真が撮れる技術の開発も、大きなテーマです」と語るのは、カメラ設計部のゼネラルマネジャーである石坂直氏。最近の機種ではオートフォーカスやマルチパターン測光など、自動化の内容も非常に高度なものになっているが、F50DやF70Dなどをみてみると、初心者からハイアマチュアまで、それぞれのレベルに合わせて使えるような工夫がなされている。

「今後は、マルチメディアにも対応できるように新しいカメラのあり方を探るとともに、原点に立ち戻って写真そのものの楽しさを再認識していただけるようなものを、カメラ・レンズといったハード面だけでなく、ソフト面でも提供してゆきたいですね」と、石坂氏は言う。今後もニコンの進化から目が離せない。



前ニコンカメラ設計部次長 中野良幸氏

「F2と同じく、F2でも露出計はペンタプリズム部内蔵とし、技術的前進があった場合はこれを採用してニコンモデルとする一方で、新型フラインダーとしても発売するという方針。露出計の指針はペンタプリズム上面とフラインダー内で確認できるが、同時に絞り値とシャッター速度も見られる。



ニコンF3(1980年)
FやF2と比べると、わずかだがコンパクトになったF3。外装のデザインは、イタリアのデザイナー・ジウジアーロ・ニコン設計陣によれば、彼のデザインはそのまま実現できるほど完璧だったという。手堅いだけでなく、右手のグリップとそこに走る赤い線などで斬新さをアピール。



ニコンF4s(1988年)
単3乾電池6本を収納するハイパワーバッテリーパックMB-21を標準搭載。最高約5コマ/秒の連続撮影が可能。また、このバッテリーパックにはLEDによるバッテリーチェックや縦位置リリーズボタン、リモートコードが使えるリモートコネクタなどを装備している。



ニコンI型(1948年)
フォーカルプレーンシャッターの回転摩擦を最小限度に抑え、シャッター精度と耐久性を向上させるため、軸受けに小型のラジアルボールベアリングを使用。また、二軸構成で低速シャッターダイヤルを高速シャッターダイヤルと同心にして、カメラ上部で操作できるようにしている。



露出を知ってイメージ通りの明るさに仕上げよう

写真提供：キャンノンEOS教室

ピントと露出は写真撮影の基本です。前回露出アンダーといいますが、今回は露出アンダーについてお話したので、今回は露出アンダーについてお話します。露出アンダーとは、カメラのオートモードではカメラが勝手に露出補正を行わずに、露出不足の状態のまま撮影された状態のことです。フィルムは光に反応して画像を焼きつけますから、光の当たる量が多過ぎれば、露出オーバーといいますが、逆に少な過ぎると暗くなってしまいます（これを

どんな時に露出補正が必要なのか
目で見る色や明るさはすべて何かに反射した光です。光の量が多くなれば白に近づき、少なければ黒に近づきます。カメラの露出計は、この目で見る光の量の平均（白と黒の中間、グレーです）を基準にして作られています。ですから、極端に白い被写体にカメラを向けると、カメラは露出オーバーにならない

ように、自動的に露出を下げてフィルムに暗めに画像を焼きつけますし、極端に黒いものを被写体とした場合はアンダーにならないように、逆に露出を上げて明るめに焼きつけます。

ところが、たとえば背中、暗い色のバックの前に人物を立たせた場合、そのままオートで撮影すると、カメラの露出計はバックの暗さに合わせて露出を計ってしまうため、露出が明るめに設定されてしまい、肝心の人物の顔は露出オーバーに焼きつけられてしまったり、肌の質感が失われてしまうのです。

このような場合はカメラの露出補正機能を使って、露出を1絞りか半絞りマイナス（暗い方向）に補正してやります（写真④⑤）。また、順光の場合は服が真っ白や真っ黒でないかぎりオートまかせでも問題はありませんが、逆光で撮影する場合はバックが極端に明るいので、カメラが露出をアンダーに設定してしまい、顔が暗くなってしまいます。

このような場合は同じように露出をプラス（明るい方向）に補正します。

この補正する数値はフィルムの感度や撮影条件の度合いによって変化するので、当初は露出補正を何段階か変えて撮影し、仕上がった写真を見て感じをつかむようにしてください。特にISO感度の高いリバーサルフィルム



写真① 露出オーバーの例。建物の形状は失われ、右上の看板の色も浅い。



写真② 適正露出の例。建物の形状もよくとらえられており、入り口付近の人物の服の色も確認できる。



写真③ 露出アンダーの例。全体的にシャドーが強すぎ、特に入り口付近が暗くなってしまった。

ムでは、1段絞りを変えると大きく変化するので注意が必要です。

AFカメラの測光システム

せっかく露出補正をしても、カメラの測光方法と食い違っていたのでは何にもなりません。最近のAF一眼レフカメラにはいくつかの測光方式が用意されていて、ある程度自由に設定できるものが増えてきています。適正

露出の写真を撮るためには、こうした様々な測光方式を知っておく必要があります。

中央重点測光という測光方式は、オートフォーカスでピントが合ったファインダーの中央部分を重点的に測光して露出を決める、もっとも一般的な測光方法です。

分割測光はファインダーの画面をいくつかに分割して測光し、その平均値を適正露出とする方法で、たとえば逆光のように、バック

と被写体の明るさに大きな差がある場合などに向いています。

スポット測光は中央重点測光の測光範囲をもっと絞って測光する方法で、狙った一点に露出を合わせる場合に使用します。

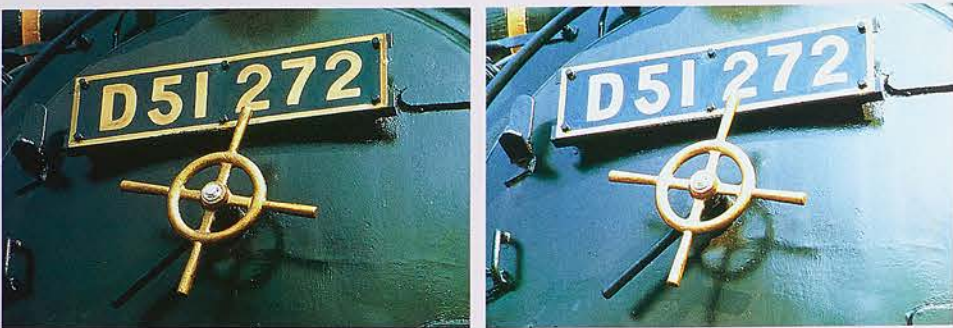
中央重点測光であればスポット測光であれば、測光するのはファインダーの中央です。では、構図の関係で露出を合わせたい被写体が画面の端にきてしまう場合はどうすればいいでしょう。そうした場合にはAEロックという機能を使います。

AEロックというのは、まず露出を合わせた被写体をファインダーの中央にもっていき、測光し、露出を決めてロックします。こうするとたとえ狙った被写体がファインダーの中央からはずれても、カメラはロックした時の露出で撮影するのです。このAEロックは被

写体あまり遠距離にあると、利きませんので注意してください。

このように、露出は写真の明るさを調整するものなのですが、必ずしも狙った被写体に露出が合っていれば良い写真になるかというと、そうとはばかりもいえません。皆さんもたとえば逆光の状況で、わざと露出をバックの明るい部分に合わせて、被写体をシルエットとして浮かび上がらせている写真を、一度は見たことがあることと思います。

露出というのは撮影者の撮ろうとする写真のイメージによって決まるものなのです。露出補正もその点を考慮してマスターするようにしてください。きっと写真の世界がひとまわりも、ふたまわりも広がることと思います。



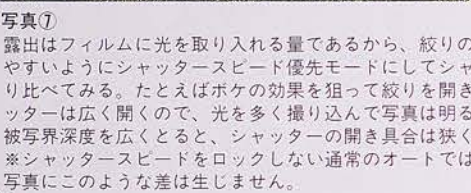
写真④ 黒い被写体をカメラの測光に合わせてノーマルモードで撮影した例。この露出ではオーバーである。



写真⑤ 写真④を1絞りマイナスに露出補正をしている。こちらのほうが機関車の重々しさ、プレート質感や色がよく出ている。



写真⑥ 黒い被写体をカメラの測光に合わせてノーマルモードで撮影した例。この露出ではオーバーである。



写真⑦ 露出はフィルムに光を取り入れる量であるから、絞りの開き具合でも明るさは変わってくる。わかりやすいようにシャッター速度優先モードにしてシャッター速度をロックし、絞りを変えて撮り比べてみる。たとえばボケの効果を狙って絞りを開き（開放）、被写界深度を狭く取った場合、シャッターは広く開くので、光を多く撮り込んで写真は明るくなる（写真⑥）。逆にボケを嫌って絞り込み、被写界深度を広くすると、シャッターの開き具合は狭くなり、写真は暗くなる（写真⑦）。※シャッター速度をロックしない通常のオートでは、自動的にシャッター速度が操作されて写真にこのような差は生じません。

OLYMPUS
(スモールはいつも、オリンパス)



凝縮性能、さらに美しい進化へ。ミューズズームデラックス
μ[mju:]ZOOM DELUXE

希望小売価格(税別)各¥40,000(リコモケース付)

あたらしく輝く、スモール・ビューティ。
ゴールドとシルバーのミューズズームデラックス新登場。





ダゲレオタイプの発明者ダゲール。
(1787-1851年、フランス人)

世界最古の写真は なんと露光時間が8時間半!!

知って得する写真おもしろ話⑥

今から300年以上前、1600年代にはすでに写真の原理は発見されていたという説があります。しかしこれは光線を当てるとあつと言つ間に真つ黒に感光してしまい、像を定着するには至らなかったようで、写真としては役に立たなかったようです。

では、今日私たちが想像するような写真を発明したのは誰かという、一般的にはフランスのダゲールだと言われています。しかしダゲールに先行して、世界最古の写真を残した人がいました。撮ったのはニエプスという人です。下の写真がそのニエプスが撮った最

古の写真といわれている「食卓」で、1822年に撮影されました。

天才的な発明家だったニエプスは、アスファルトの溶液を感光膜としてガラスでネガを造り、「食卓」を撮影しました。この頃、日本はまだ江戸時代の後期、町人文化が開花した文政時代に当たります。ニエプスはこの「食卓」を撮影するために8時間30分も露光したと言われ、実用的というには程遠いものだったようです。

ニエプスの発明した原理をベースに、研究を重ねて現在の写真原理の原形を生み出したのがダゲールです。ダゲールとニエプスは写真に関して情報交換を行っていたらしいのですが、ダゲールは外交上手、ニエプスは技術屋タイプと対照的だったということです。

ダゲールが写真を発明するに当たって、面白い逸話が伝わっています。ダゲールが感光材を研究している時に、戸棚にあった水銀を誤って感光材の上に落としてしまったことから、銀に優れた感光作用があることを発見したというのです。真偽のほどはわかりませんが、それほどダゲールの発明が、後の写真技術の発達に与えた影響が大きかった証拠ではないでしょうか。



最古の写真と言われている「食卓」1822年、ニエプス撮影（日本では江戸時代の後期、文政時代のことです）。なお、ニエプスの最初の写真は「食卓」ではないという説もあります。（現存写真はなく、印刷物より複製使用しています）



現在のISO 100のカラーリバーサルフィルムで食卓を撮影。（写真提供：小松紀三男氏=JPS会員）

ダゲールは、沃化銀が光に当たると徐々に分解し、灰黒色に変わる性質を利用して現像に成功、さらに食塩水を定着液にして銀板写真を完成します。1837年のことでした。

ダゲールの発明した現像方法は現在ダゲレオタイプと呼ばれていて、ネガがないので焼き増しができません。また、像は鏡で見たのと同じように、左右反対に写ってしまいます。

PENTAX



おまかせ、らくらく、いい写真。

かんたん操作できれいに撮れる。
ペンタックスがついに作った、
小型軽量の新AF一眼レフ〈Zメイト〉。



【新発売】

気楽なフルオート一眼
Zメイト
〔Z-70P〕

希望小売価格(税別)
Z-70Pクォーツデット(Zメイト)……72,000円
(Fズーム35mmF4~80mmF5.6付)

〒100 東京都千代田区永田町1-11-1 旭光学工業株式会社

京セラ株式会社

日本のカメラはこれになりました。
ありがとうございました。



カメラグランプリ'95受賞

CONTAX G1

●メーカー希望小売価格/本体：143,000円、プラナー T* 45mm F2：37,000円、ゾナー T* 90mm F2.8：47,000円、ピオゴン T* 28mm F2.8：57,000円、ホロゴン T* 16mm F8：280,000円(消費税抜き価格) ●お問い合わせ：光学機器事業本部 〒150 東京都渋谷区神宮前 6-27-8 TEL.03-3797-4611(代)

入選作品発表!!

(1名)賞金30万円と楯

グランプリ「堂々と」吉野浩司氏(埼玉県熊谷市)



寸評:桜の花だけを美しく撮ろうとするのではなく、桜の幹をしっかりと捉えて、その生命力を表現しています。朝日があつた幹の色と、晴れた空の青の色彩構成もシンプルにまとまっております。重厚感を持たせたながらも、明るく、清々しい写真に仕上がっていると思います。印象的な作品です。



吉野浩司さんを深谷店清家店長がインタビュー
清家店長 撮影場所はどちらですか?
吉野さん 秩父・荒川村の古刹で清雲寺といえます。秩父鉄道で武州中川駅から徒歩15分位の所です。
清家店長 どこに作品の焦点をおかれましたか?
吉野さん 古木があまりにも堂々としていたので、桜の花よりもむしろこの古木の力強い生命感みたいなものを表現してみたかったのです。それと、空の青さと桜とのバランスの上で、雲を入れたかったのですが、雲が思った通りの位置になかなか流れにくく、タイミングに苦労しました。
清家店長 写真を本格的に始めてまだ3年ほどと歴史は浅いですが、風景に、ネイチャーフォトに積極的挑戦されておられます。今後の活躍が期待される方です。

特選 リバーサルプリント部門(3名) ネガカラープリント部門(3名) 計6名 賞金20万円と楯

リバーサルプリント部門



「桜の花束」森上信名氏(静岡県浜北市) 「散花」岡田好文氏(徳島県阿波郡) 「桜花」沖野利文氏(愛媛県南宇和郡)

ネガカラープリント部門



「魅惑の瞳」巻島秀男氏(埼玉県久喜市) 「四月の枝庭」指田利武氏(埼玉県所沢市) 「赤い桜」飯盛康博氏(福岡県福岡市)

準特選 リバーサルプリント部門(5名) ネガカラープリント部門(5名) 計10名 賞金10万円と楯



「古木の在る里」松尾良年氏(神奈川県横浜府) 「山の湖」滝沢洋治氏(長野県小県郡) 「新しい春」徳永裕氏(奈良県北葛城郡) 「舞い散る桜」原田今朝弘氏(広島県広島市) 「老樹」大野守氏(愛媛県松山市)



「ワルツ」解原孝明氏(石川県小松市) 「春彩」平野一也氏(神奈川県横浜府) 「ゆとり(空)」飛田松郎氏(埼玉県北足立郡) 「霧に咲く」末永勇氏(山口県宇部市) 「花びらの小道」松田貞盛氏(長野県小県郡)

まずまず好評の前線シリーズ、第3回桜前線フォトコンテストでは7,400点を超える応募がありました。

審査員作品総評

桜は誰が撮っても「絵になる」モチーフです。それだけに選定には大変苦労しました。最終的に残ったのはバックや人物の組み合わせなど構図がうまく整理されている作品です。ただきれいにまとまっているだけでなく、斬新さを持っていることが重要なポイントになりました。桜の撮影は絵画的な美しさのみでは



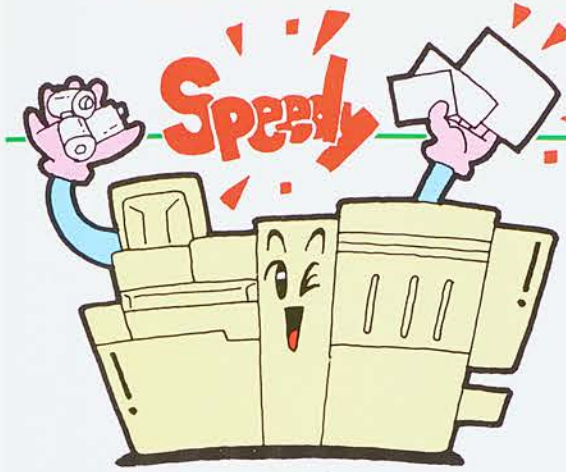
フォトコンテスト審査員 三好 和義氏

弱さがあります。例えばアングルにしても上から撮ったり、下から撮ったりしたような、個人的な面白さを持った作品が上位を占めました。

平成4年にスタートした「紅葉前線」フォトコンテストは今年で4回を数え、今や秋期を迎えると、このフォトコンを待ちわびるお客様が年々、増えています。

テーマ 紅葉をメインとした風景および紅葉と人物など、紅葉を題材としたもの。

部門 「リバーサルプリント部門」「ネガカラープリント部門」



キタムラ・インフォメーション

この秋、キタムラが一段とパワーアップ!!

ミニラボを店内に導入 カラープリントの仕上げ時間をグッと短縮

カメラのキタムラでは、現在全国のキタムラ各店の店内に、プリントの現像・焼きつけができる「ミニラボ」の設置を急いでいます。設置した店から順次、カラープリントのお客様へのお渡し時間を大幅に短縮してまいります。「ミニラボ」はカラーフィルム現像機とカラーペーパー(印画紙)に焼きつけるプリンターを組み合わせたシステムで、お預かりしたカラーフィルムをすぐに現像、特にお急ぎのお客様には「30分仕上げ」でご要望にお応えしています。店内で商品をご覧いただいている間に、またお近くでお買い物をしている間に、仕上げることができるようになりました。例えば今までは朝フィルムをお預かりするとプリントをお渡しして

きるのは夕方でしたが、「ミニラボ」の導入により、お昼にお預かりした場合でも当日の夕方にはお渡しすることが出来ます。プリントサイズもサービサイズだけでなく、パノラマ写真やキングサイズもスピーディ処理を行なっていますから、以前のように何日もお待たせすることがなくなりました。焼き直しプリントにも素早く対応いたします。高品質で超スピード現像、それでも価格は従来そのまま据え置いています。祭や紅葉、桜といった季節ものを撮影して仕上りを早く確かめたい時、友人と撮影してその日のうちにはいし時、仕事で緊急を要する時など、是非ご利用ください。なお、スペースの関係でミニラボを設置できない店も一部ありますので、ご了承ください。

撮れたての秋、待つてます。

カメラのキタムラ第4回全国紅葉前線フォトコンテスト

平成4年にスタートした「紅葉前線」フォトコンテストは今年で4回を数え、今や秋期を迎えると、このフォトコンを待ちわびるお客様が年々、増えています。

テーマ 紅葉をメインとした風景および紅葉と人物など、紅葉を題材としたもの。

部門 「リバーサルプリント部門」「ネガカラープリント部門」

賞金総額 400万円

賞	リバーサルプリント部門	ネガカラープリント部門
グランプリ	両部門共通 賞金30万円と楯(1名)	
特選	賞金20万円と楯(3名)	賞金20万円と楯(3名)
準特選	賞金10万円と楯(5名)	賞金10万円と楯(5名)
入選	賞金1万円と楯(50名)	賞金1万円と楯(50名)
審査員特別賞	両部門共通 賞金5万円と楯(10名)	



第3回の最優秀グランプリ作品 「杉木立と紅葉」宮崎啓一氏
主催:カメラのキタムラ
協賛:富士写真フイルム株式会社
キヤノン販売株式会社、ミノルタカメラ販売株式会社、ニコンカメラ販売株式会社、ペンタックス販売株式会社、オリンパス販売株式会社、京セラ株式会社、シャープ株式会社、キタムラ・インフォメーション

カラープリント部門
●応募資格 両部門ともカラープリント四ツ切(ワイド四ツ切・4PW含む)に限定。他のコンテストに応募した作品、又は応募予定の作品はご容赦下さい。

●応募方法 応募用紙に必要事項をご記入の上、作品の裏側にセロテープで貼付して下さい。応募用紙は自作も可。何点でも応募可。

●作品返却 応募された作品は審査終了後、カメラのキタムラ店頭にて返却いたします。但し入賞作品の返却は致しません。

●入賞作品の版權 入賞作品は「第4回全国紅葉前線フォトコンテスト」事務局に帰属。

●応募期間 平成7年9月20日から12月5日(事務局必着)

●発表 日本カメラ2月号(平成8年1月20日発売)に掲載。

●ご応募・お問い合わせ先 (株)キタムラ内「第4回全国紅葉前線フォトコンテスト」事務局 〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 新横浜WNビル7F ☎045-476-0777

なお、入賞作品のネガまたはスライドの原稿は提出いただきます。



(CONCEPT: TOTAL BALANCE)



「使いやすさ」の意味は、人によってそれぞれ違う。
それがαの結論です。

それは、スムーズで、しかも素早い操作のための操作ボタンの独立と的確な配置。ボタンやダイヤルの位置や機能を一度覚えれば、ファインダーを覗いたまま、スムーズに、しかも素早く操作できる。それがα-707siの最大の特徴です。撮影に必要な情報はすべてファインダー内に表示され、各操作部材も機能的にレイアウト。さらに、使用頻度の高い機能のボタン類を可能な限り独立させることで、シンプルで快適な操作を実現しています。使い込むほどに誰もが実感するここち好き。それは、高いポテンシャルと使いやすさの両立をめざした、私たちミノルタからのひとつの回答です。



まっすぐな好性能。
α-707si

●ワイドフォーカスエリア(ローカルフォーカスエリア選択可能) ●マルチ動体予測フォーカス制御 ●AF連動コマ/秒連続撮影 ●AF制御自動切り替え ●高感度AF(EV-1~19(ISO100)) ●AF優先/リリース優先切り替え可能 ●AF補助光機能 ●Pモード(シーン自動判別プログラム)・Aモード・Sモード・マニュアル ●14分割ハンニカムパターン測光・スポット測光・中央重点的平均測光 ●スポットAEL機能 ●シャッター速度1/8000秒~30秒・B ●フラッシュ内蔵(ガイドナンバー12(ISO100・m)・自動アップ/ダウン) ●赤目軽減機能 ●ハイスピードシクソ(5400HS使用時) ●ワイヤレスフラッシュ(5400HS/xi・3500xi使用時) ●登録機能 ●測光インジケータ ●露出補正 ●フラッシュ測光補正 ●プレビュー機構 ●2コマ多重露光機能 ●ブラケット機能 ●ハイイボイントファインダー ●ファインアキュートマウント焦点板 ●フィルム感度変更記憶機能 ●パナマ途中切り替え可能 ●アイスタートシステム(ON/OFF可能) ●インテリジェントカード使用可能 ●大きさ:153.5(幅)×98.0(高さ)×71.5(奥行)mm ●重量:605g(電池別) ●希望小売価格(税別) ●α-707si AFズーム24-85mm F3.5-4.5付……………¥147,000 ●α-707si ボディ……………¥95,000 ●AFズーム24-85mm F3.5-4.5……………¥52,000(フード付)・ケース¥2,000(別販売) ●AF7ボテズーム100-300mm F4.5-5.6 ¥70,000(フード・ケース付) ●プログラムフラッシュ5400HS ¥47,000(ケース・ミニスタンド付) ●縦位置コントロールグリップVC-700 ¥18,000 ●ホルディングストラップHS-700 ¥2,000

■α-siシリーズを詳しく紹介したカタログを差し上げます。官製はがきに住所・氏名・年令・機種名を記入の上、右記までお送りください。〒108 東京都港区高輪2-19-13(NS高輪ビル) ミノルタ株式会社 宣伝部 写友缶係 ●α-siシリーズのお問い合わせフリーダイヤル☎0120-493-881 ●お客様商品相談窓口 ☎(03)5423-7555 ☎(06)271-2641

読者のページ 写友缶ふれあい広場

結婚7年目にしてやっと授かった娘、優貴子(9か月)は、バガワープロをうっている、よってきて、うちまわってバを困らせるんですよ。このショットは、娘に自由にうたせているんですよ。パパもママも娘にメロメロなんです。光嶋 美佐子様 岡山県津山市

スナップは、下関商業S.11卒同窓会総会に出席、宴席にてパートお手伝いさんと喜寿のヒゲ爺さん(私)のうれしそうなおモーラス一枚です。太田 義雄様 大阪市大正区

「わが娘よりのハイポーズ」きれいな写真だね。私としては、上手にとったつもりですが、いかがでしょうか。杉浦 勲様 北海道帯広市

▲早く押してよ。

▼JR、待ちたびれちゃった。

▲▼ボク、お兄ちゃんになったよ。

世古 享様 三重県尾鷲市

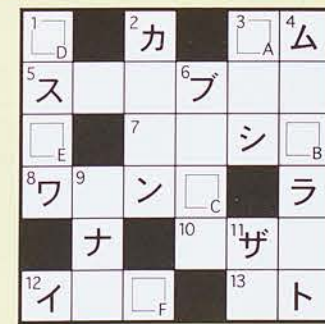
お便り&傑作写真 大募集!

このコーナーでは、皆さんからの楽しい投稿を募集しています。例えばお便りだったら「最近私のまわりで起こった面白い出来事」や「写真サークルの仲間を募集」など、どんな内容のものでも大歓迎!お写真だったら「私が撮った自慢の名作ベストワン」「偶然撮れた珍場面決定版」などにあなたのコメントを添えて、どしどし応募ください。掲載された方には粗品を進呈いたします。ハガキ・封書での送り先は、〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 カメラのキタムラ広報室「写友缶ふれあい広場」係 まで。お便りは、ファックス番号 045-476-0778 でも受け付けております。また、お近くの「カメラのキタムラ」に直接お持ちいただいても結構ですので、読者の皆様からのたくさんのご応募をお待ちしています。

編集後記

皆さんにご愛読いただいている「写友缶」が、ご好評につき、今号よりなんと8ページもボリュームアップされ、またまた新しいコーナーも加えて一層にぎやかになりました。これも読者の皆様の力強い応援があればこそと、スタッフ一同、この場をお借りしてお礼を申し上げます。その今号より登場した新コーナー、「カメラメーカー歴史探訪」第一回のニコンの巻はいかがでしたでしょうか。おなじみのカメラメーカーの、意外と知られていないエピソードや商品開発の歴史など、今後も各社の興味深いお話を取り上げてゆきたいと思っております。どうぞお楽しみに。さて、今号の「彩」に続き次号の特集では、雪をイメージさせる冬の象徴的な色であり、日本人の精神文化において特別な意味を持つ「白」をテーマに取り上げます。なお、発行日は12月1日ですのでよろしく。

プレゼントが当たる! クロスワードパズル



(ヨコのカギ)

3. 有ること無いことをまとめて言うこと?
5. 空のような青さを英語でどう言います?
7. 野茂投手が得意な「K」とはこれのことです。
8. 野茂投手、大きく振りかぶって○○○○アップ!
10. カメラを買ったら、次は○○○を揃えよう。
12. ○○○よく神輿がかつく秋祭り。
13. お正月などに演奏される和楽器のひとつ。

- (タテのカギ)
1. 集の部分が少ないアンコがいつばいの○○○饅頭。
 2. 集合の反対は?
 3. 高級な漆器に用いられる塗料です。
 4. 月明かりを英語で言うこと?
 6. 角度を計る器具です。
 9. 粋で○○○○な男、なんてことをよく言います。
 11. 小さい魚や下つ端の人をこう呼びます。

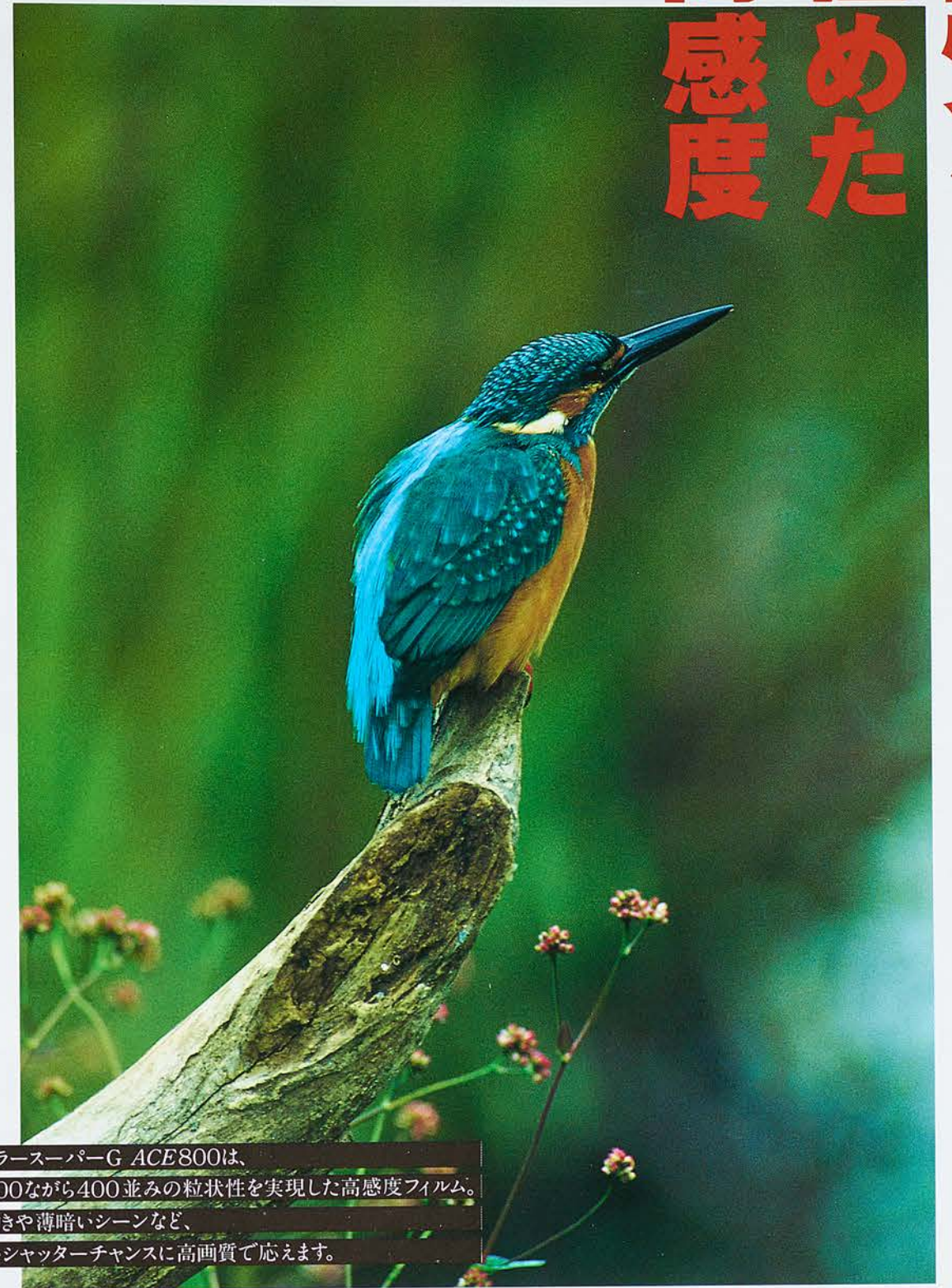
答え =

○○○○○○
(ヒント: 秋に学校や会社で催されます。)

問題: クロスワードに答えて、A~Fのマスの字をつなぐとある言葉になります。その答えとあなたの住所・氏名・年齢・職業をハガキに書いて応募ください。正解者の中から抽選で30名の方に、粗品を進呈いたします。あて先: 〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 カメラのキタムラ広報室 写友缶「クロスワードパズル」係 締め切り: 11月30日(当日消印有効)

※前号の正解は「ナツマツリ」でした。当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

高感度
極めた
画質を



フジカラースーパーG ACE800は、
ISO800ながら400並みの粒状性を実現した高感度フィルム。
速い動きや薄暗いシーンなど、
幅広いシャッターチャンスに高画質で応えます。

FUJICOLOR
SUPER G ACE
800



カメラ
Vol. 14

Autumn

平成7年9月1日発行 季刊第14号

カメラのキタムラ広報室発行

〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1

☎045(476)0777